

令和5年度 河川水辺の国勢調査 入出力データ作成の留意点

1. 入出力システムの「調査年度」について

【1つの業務で契約年度と完了年度が異なる場合】

- 「調査年度」は河川水辺の国勢調査の現地調査を主に実施した時期が該当する年度としてください。
例1：A年度1月に契約し、A年度3月に早春調査、翌B年度に春、夏、秋調査を実施した場合。「調査年度」はB年度。
例2：A年度4月に契約し、A年度に春、夏、秋調査を実施し、翌B年度4月に早春調査を実施した場合。「調査年度」はA年度。

※判断が難しい場合は必要に応じてヘルプデスク (kokucho@rfc.or.jp) に問い合わせをお願いします。

【1つの調査が複数年度の業務に分かれている場合】

- 完了年度の業務において、複数年度的全調査内容を反映した入出力データを作成してください。その際の「調査年度」は開始年度としてください。
例：河川環境基図作成調査を1年目（A年度）業務で水域を実施し、2年目（B年度）業務で陸域調査を実施した場合。B年度に水域と陸域を合わせた入出力データを作成。「調査年度」はA年度。

2. 提出する入出力データのバージョンについて

- 「入出力システム」は最新バージョンを用いて作成してください。なお、入出力システムは年度内で更新される場合があります。提出時点の最新版を用いて作成してください。
- 入出力データ提出時は、入出力データのテキストファイルを開いて、ファイルに記載されているバージョンが最新であることを確認してください。
(テキストファイルの例：R2023_82_10150_4_N29272.txt、)

3. 入出力システムチェック結果について

- 完成時の「チェック結果」7ファイルを入出力システムと合わせて提出してください。

【チェック結果7ファイルと確認事項】

No.	チェック結果ファイル名	確認事項
1	調査数量チェック	地点（地区数）、回（調査回数）、は成果品の値と整合がとれているか
2	現地確認種数チェック	現地調査確認種数は成果品の値と整合がとれているか
3	未掲載種チェック	未掲載種数は成果品の値と整合がとれているか。
4	種コードチェック	「種名チェックが実施されていない」というメッセージが無いか
5	調査データ整合性	「テーブル間整合検査」が合格であるか
6	機種依存文字	機種依存文字は無いか。※ある場合は各項目で赤文字表示が存在。
7	GIS 整合性	すべてのフォルダのファイル有無、フォーマット、整合チェック結果が「合格」となっているか。（ファイルのチェックに一部×を含んでいても構わない。）

令和5年度 河川水辺の国勢調査 入出力データ作成の留意点

4. 種等まで同定できなかった場合の理由の記載について

- 種等まで同定できなかった場合は、マニュアルに基づき、種等まで同定できなかった全データについて、入出力データの調査結果の「備考」に理由を記載してください。
- 対象の分類群は、魚類（河川II-37・ダムIII-37）、底生動物（河川III-38・ダムIV-40）、植物（河川IV-11・ダムVI-11）、両生類・爬虫類・哺乳類（河川VI-18・ダムVIII-19）、陸上昆虫類等（河川VII-15）となります。（カッコ内はマニュアルの該当頁）

5. 河川環境基図作成調査について

- 河川環境基図作成調査では、下記の点を確認した上で入出力データの提出をお願いします。
- 未掲載群落を登録する場合、他の年度・河川の河川環境基図作成調査のデータが入った状態の入出力システムを用いて作業を行うと、未掲載群落が正しく反映されない場合があります。

【河川環境基図作成調査の入出力データの確認事項】

No.	様式ファイル名	確認事項
1	現地調査様式 2 植生図凡例	未掲載群落の群落名、群落表示コードが正しく反映されているか（植生図と一致しているか）
2	整理様式 5 1km ピッチ植生面積集計一覧表	群落名毎の合計面積が報告書の値と整合がとれているか
3	整理様式 6 区間別植生面積変動状況一覧表	今回調査及び前回調査について、未掲載群落の群落名、群落表示コードが正しく反映されているか

6. GIS データの座標系について

- 三次元河川管内図と整合をとるため、JGD2011/平面直角座標系 (X,Y) を用いてください。
- ※入出力システムで GIS データを作成する場合は、「世界測地系」で作成された背景図（ベクタまたはラスタ）の取込かつ測地系の選択画面で「世界測地系」を選択したうえで作成してください。

7. 河川環境基図作成調査の GIS データの提出について

- 「入出力システム操作マニュアル」では、河川環境基図（植生図や水域図）などの複雑な図形については、GIS エディタでは作成できないため、別の GIS アプリケーションを使用するなどして作成し、それらのファイルを「河川環境情報地図ガイドライン（案）」に規定しているファイル形式に変換処理して、本システムに取り込むこととしています。
- 「河川環境情報地図ガイドライン（案）」に規定したファイル形式に変換処理した GIS データは、変換処理（図郭区切り）の過程において一部に欠損等が生じる場合があります。
- 変換処理後の GIS データを「入出力システム」の GIS エディタに取り込み・表示し、全範囲について欠損等が生じていないことを確認してください。 取り込み方法：「ファイル」メニューの「ベクタ地図を開く」
- GIS エディタでの表示において全範囲について欠損等がない状態としたものを提出してください。
- 合わせて、変換処理（図郭区切り）前の GIS データ（shp 形式）をファイル名および属性（並びかつ入力内容（コード、名称））を「河川環境情報地図ガイドライン（案）」に準拠した上で、成果品のオリジナルデータとして納品してください。

（以上）